

本 企 号
平成20年10月15日

国土交通省道路局長 様

中川郡本別町長 高 橋 正 夫



今後の道路行政についての意見・提案の提出について(提出)

平成20年9月19日付け国道企第37号をもって依頼のありましたこのことについて、
別紙のとおり提出いたします。

【企画振興課 企画・生涯学習担当(大橋)】

I. 道路特定財源の見直し

道路特定財源等に関する基本方針に基づき今後の道路行政を推進願います。

II. 新たな中期計画の作成

5年毎の道路中期計画の作成際は、十分に地方の方々の声を始め、国民各層の声に真摯に耳を傾けながら、最新のデータと専門家の意見を踏まえ、作成願います。

III. 成長力確保のための高速ネットワークの整備について

北海道は広大な面積を有しており、人やモノの移動を自動車交通に依存しています。高速ネットワークの早期整備は、地域経済の活性化を図るために、喫緊の課題であります。同時に、救急医療施設へのアクセスや冬期間の安定的な通行の確保など、地方に住む人々が安全で安心して暮らす上で、必要不可欠であります。地方の根幹となる高速ネットワークの整備は、国がしっかりと責任を持ち整備すべき施設であることから、道路特定財源が一般財源化されたとしても早期完成に向けて努力いただきたい。

このことが、高速ネットワークの形成が未だ十分に図られていない北海道が自主・自立に向けて、他府県と同じ条件で地域間競争のスタートラインに立つための条件になります。

IV. 安全・安心な道路管理について

北海道・十勝の冬は厳しく、本州の積雪寒冷地と比べることの出来ない気象条件であります。日中の気温が0度を上回らない、いわゆる真冬日が続き、降った雪が凍る状況であります。

冬期交通の安全確保のための除排雪、市街地や通学路等の歩道の除排雪、除雪後の車道幅員の確保、地吹雪対策など冬に強い道路の整備促進願います。

自転車事故が増加するとともに、自転車が歩道を無秩序に通行している実態を踏まえ、平成20年6月、自転車の歩道通行要件の明確化等を内容とする道路交通法の改正が行われました。安全な道路確保のため、自転車に係る通行実態・事故実態等を踏まえ、自転車走行空間の整備を推進願います。

○現状

国民生活の広域化、多様化、地域間の相互依存関係が一層の強まりをみせる中で、交通体制の確立の重要性は益々高まりをみせています。

なかでも自動車交通は、現状の輸送交通手段における中心的役割を担っており、道路網の整備は重要です。

本町では、国道3路線、道道7路線と道道485路線が相互に接続しながら道路網を形成しております。

平成15年6月、北海道横断自動車道の一部、池田～本別・足寄間が開通、現在は、本別～釧路間が新直轄方式事業として整備が進められています。

北海道唯一の第3セクター鉄道として開業以来、地域住民の重要な足として、また、十勝圏とオホーツク圏を結ぶ重要な公共交通機関として、その役割を担ってきた「ふるさと銀河線」は、超低金利による運用益の激減や沿線住民の減少等による乗客の減少により、平成18年4月20日をもって廃止となり、代替公共交通代替バスに求めることから、益々、道路整備(バスベイスの設置、道路の維持)が必要となってくる。

人にやさしい道路づくりを目指し、交通安全施設の完成を見据え、インターチェンジの保全や景観に配慮した潤いある道路環境づくりが求められており、ポランティア・サポート・プログラムにより、町内2地区の国道植樹帯に町民の手により花の苗が植えられ、町民自らが道路環境づくりに汗を流しています。

○課題

過疎地における、道路交通網の整備は重要であり、国道、道道、町道等の有機的な結合が必要です。

特に、近年の物流輸送の主流はトラック等が中心であり、年々増加する交通量への対応しなければなりません。

国道242号は、物流、公共バス路線にもなっており、本別町を横断する主要国道であることから、交通量も多く、更なる整備が必要です。

また、町道は、総延長454kmを超え、未舗装路線も多く、計画的な整備を一層進めていく必要があります。

加えて、高齢化が急激に進んでおり、人に優しい道路づくりのため歩道部分のバリアフリー化についても計画的に整備を進めていかなくてはなりません。

冬期間の安全で快適な道路交通の確保は、厳寒冷地である本町にとって重要な課題であり、車道部分の除雪はもとより、歩道部分の除雪も人にやさしい道路づくりのためにも、重要です。

ふるさと銀河線の廃止に伴う踏切の交通障害、緩和のため、勾配修正、段差解消、道路幅、歩道の十分な確保等を進めなければなりません。

北海道横断自動車道本別～釧路間の完成を見据え、インターチェンジ付近からの交通網整備を含め総合的な道路交通体系の確立を進めていかなくてはなりません。

本別町には、北海道横断自動車道の一部として、平成15年、本別JCT・本別ICが整備、さらに、現在、本別～釧路が新直轄方式に指定され、整備が進められているところです。

本別町としては、釧路圏からの十勝圏への入口の町として、本町の持つ資源や産業を活かしたまちづくりを進めるため、早い時期から「ハイウェーカントリー構想」を策定し、将来的なまちづくりの方向性を見据えてきました。

北海道は広大な面積を有しており、人やモノの移動を自動車交通に依存しています。高速ネットワークの早期整備は、地域経済の活性化を図るためには、喫緊の課題であります。

日本の食糧基地である、十勝の農産品を大消費地である都市へ届けるためには、高速ネットワークの整備が必要不可欠です。特に、本町には、ビートを原料とする製糖工場、生乳を原料にする乳製品工場があり、原料の安全輸送のためにも国道をメインにあらゆる道路整備を進めなければなりません。

高速ネットワークの整備は、地域の産業に大きな発展をもたらすと捉えています。特に、IC周辺は原料の調達、製品の出荷する上で極めて有利な環境であることから、物流部門の企業立地を見据え、工業団地等の造成を計画しているところです。

また、情報通信技術の発展により、自然環境の良し、IC周辺への情報通信産業の誘致も視野に入れていくところです。

商業については、高速道路開通に伴う、ストロー現象を防ぐため、ICから市街地の商店街への交通の流れを良くし、本町へ訪れる方々を市街地中心部へ導き、本町の特産品をアピールできる商店街を育成します。

観光については、都市には無い、すばらしい自然。基幹産業である農業を活かした体験型観光を取り入れ、本別町ならではの観光により多くの客を誘致します。

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

北海道本別町

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
地域活力の向上	北海道横断自動車道(本別～釧路)の早期整備	日本の食糧基地としての北海道の役割、とりわけ十勝は、農業生産地として全国に向け安全、安心、良質の農産品を出荷しています。現在の物流はトラックが中心であり、北海道横断自動車道(本別～釧路)の早期整備は、地域に及ぼす影響は計り知れない。	
総合的な安全対策及び危機管理の強化	除雪等の管理対策の強化	北海道十勝地区の冬期交通の安全確保は、最重要に進めなければなりません。降雪時の除雪は勿論ですが、降雪後の路面凍結は、スタッドレス化に対応出来る対応が必要です。さらに、除雪による排雪は、交通安全上からも早急に対応しなければなりません。また、冬期の交通安全を確保するためには、道路幅の確保は欠かせないため、全国統一の道路幅ではなく、豪雪地帯の道路幅の確保が必要です。	
	バス路線国道の整備及びバスベ이의設置	ふるさと銀河線廃止後、本町に残された唯一の公共交通機関である、ふるさと銀河線代替バスの路線となる国道242号の整備及びバスベ이의設置により、交通安全の確保が図られる。	

今後の道路行政についての意見・提案

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
景観に配慮した道路の維持管理について	「ボランティア・サポート・プログラム」の取り組み 本別町内2箇所で、北海道開発局が管理している道路(直轄国道)を対象として行われる歩道等の美化・清掃プログラムを実施しています。 国道242号 南4丁目地先 植栽延長 約 900m、植栽数 6,600 本 実施団体 南4丁目自治会 国道242号 仙美里元町地先 植栽延長 約 800m、植栽数 650 本 実施団体 仙美里元町自治会	地域の歩道に設置された植樹帯等の美化や歩道の清掃に、住民グループ等が「実施団体」となり活動しており、地域の共有財産である道路への愛着心を深めています。 歩道のバリアフリー化を進め、高齢者・障害者等利用者の利便性及び安全を高め、人々の溢れるみちを創造することが出来る。	
少子高齢化社会に対応したバリアフリー社会の形成について	歩道のバリアフリー化の整備促進		